

特別支援学校における医療的ケアの研修に関する研究

特別支援教育学専攻

心身障害コース

M08107k

旗谷 徹志

I. 問題と目的

教育における医療的なケアの問題は 1988 年頃から顕在化し、教員が医療的ケアを実施する場合の違法性が大きな問題とされた。文部科学省は 2004 年、経管栄養、咽頭手前の吸引、導尿の 3 行為に限定して、違法性を阻却するという判断を示した。その後、看護師配置等の医療的ケアの体制整備が進み、医療的ケアが次第に一般化していった。

医療的ケア実施校では、看護師や研修を受けた特定の教員が医療的ケアを実施している。過半数の自治体で教員が医療的ケアを実施している。教員は医療的ケアを実施する場合、十分に研修をする必要があるとされ、各自治体や実施校が研修を行っている。医療的ケアの広がりと共に、その研修はますます大きな課題となっている。しかし、医療的ケア実施校における研修実態や課題等を調査した研究や文献は見当たらない。

そこで、医療的ケア実施校における医療的ケアに関する教員研修について、具体的な研修項目や研修方法等の実態を明らかにするとともに、医療的ケアに関する教員研修のあり方を検討することを本研究の目的とする。

II. 方法

1. 質問紙調査

(1) 対象者

兵庫県が「特別支援学校医療的サポート推進事業」で医療的ケアを実施している特別支援学校(14校)及び兵庫県内の市立特別支援学校

(肢体不自由 11校)、合計 25校の医療的ケア担当者及び看護師を対象者とする。

(2) 目的

医療的ケアの研修実態を明らかにすることと医療的ケアの研修担当者及び看護師がどのような研修を必要であると考えているのかを明らかにすることを目的とする。

(3) 調査期間

平成 21 年 6 月に調査を実施した。

(4) 調査方法

郵送による質問紙調査を実施した。

(5) 質問紙の作成

「医療的ケア研修テキスト」を参考に、案を作り修正した。質問紙は、研修の実施状況を調査する質問紙 1、研修のあり方を質問する質問紙 2 に分けた。

2. 各校校内研修会資料の収集

(1) 対象者と収集時期

対象者は質問紙調査を実施した 25 校の医療的ケア担当者で、2009 年 6 月に実施した。

(2) 目的

各校で実施されている医療的ケアの研修会の実態を明らかにすることと研修のあり方を提言する素材とすることを目的とした。

III. 結果

1. 質問紙調査

25 校全てから回答があったため、回収率は 100%であった。

(1) 質問紙 1 (内容: 医療的ケアの実施状況)

・回答校 25 校 (有効回答 24 校)

①医療的ケア実施状況

各校の医療的ケア対象児童生徒数は平均7.5人で、最多32名、最少の1人の学校は8校であった。

②教員の医療的ケア実施状況

教員が医療的ケアを実施している学校は15校(62.5%)であった。

③医療的ケアの研修

研修実施校は多い(19校 79.2%)が、要項があるのは11校(19校中 57.9%)であった。書籍やビデオはあまり使用されず、医師や看護師による研修や実技研修が多い実態が分かった。

④ケア実施者になるための認定テスト制度

認定テストを実施しているのは5校(20.8%)であった。認定テストの内容は、いずれも実技テストで保護者・医師らによる手技確認であった。

⑤研修時期

時期を定めて研修を実施しているのは16校で、そのうち8校は1学期が始まるまでの4月上旬に研修を実施している。

⑥具体的な研修項目(51項目)

※1校は全て未記入→有効回答23校

吸引や緊急時対応は高率で実施していた。また、数は少ないものの高度な内容まで研修している学校があった。

(2)質問紙2(内容:研修のあり方)

・回答校25校(担当者及び看護師)

①具体的な研修項目(51項目)

どの項目も研修すべきであるとする意見が多く、研修の必要がないとする回答は全ての項目で半数以下であった。

②ケア実施者になるための認定制度

ケア実施者になるための認定制度が必要だとする回答が多い(19校 76%)。

③医療的ケア研修の課題(自由記述より)

- ・多忙等のため時間がとりにくい(7人)
- ・看護師向けの研修もしてほしい(5人)

・研修案内などが少なく医療的ケア研修に関する情報が乏しい(5人)

・経験知識の差が大きく研修をしにくい(1人)

2. 各校校内研修会資料

集まった資料数は13で、校内研修会用に医師が作成した資料が多く、医療的ケアの理念や歴史を扱った資料や医療的ケアを教育課程に位置づける資料や年間研修計画表もあった。

IV. 考察・研修のあり方

1. 示唆された医療的ケアの研修のあり方

1) 内容・方法

医療的ケア概要と関連法律、身体構造など幅広い内容の教員の研修が必要であり、担任の場合は実技研修が特に重要である。研修の講師は、医師・看護師ら専門家が望ましい。また、書籍・プリント・ビデオなどは補助的に使用する。

2) 研修の対象者と実施時期

新転任者や医療的ケア対象の児童生徒の担任等、対象者を限定した研修を計画的に実施する。1学期開始前の研修が重要である。

3) 認定テスト

教員が医療的ケアを実施する場合は、医療的ケアを安全に実施するための工夫の一つとしての認定テストがある。また、この手続きは医療的ケア実施の初期研修完了の意味合いも含んでいる。認定テストの方法は医療的ケアの手技確認など実技を含むものが望ましい。

2. 医療的ケア研修に関する課題

ケア対象者が1人の学校等多様な実態にあわせた研修、情報の少なさへの対応、医師など専門家との連携、看護師の配置や勤務形態、看護師研修の充実、国都道府県市による研修の充実、予算と講師の確保等が課題である。

主任指導教員 芝田 裕一

指導教員 芝田 裕一